

環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング発表資料

活動団体名：AMAホールディングス株式会社
活動地域：島根県隠岐郡海士町

活動におけるテーマ

**“ないものはない”を
社会・経済・環境で体現し
世界へ広げる**

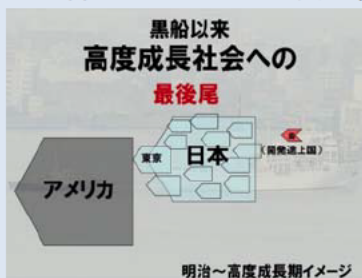
地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

◆地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

海士町は【ないものはない】といえる
持続可能な社会へのタグボートを目指します

- ①「ありません」
便利なものはなくてよい ないことを積極的に受け入れる
- ②すべて「あります」
人が生きていくために大切なものはすべてここにある
- ③ないなら「つくる」
みんなで創る過程にこそ意味がある（思い出づくり）

地域の人どうしの繋がりを大切に、無駄なものを求めず、
シンプルでも満ち足りた暮らしを営むことが真の幸せではないか？



地域の現状と課題

地域の現状

概要

- ◎人口**2353人** 高齢化率**41%**
- ◎本土から3時間 東京から**8時間**
- ◎人口の流出と財政破綻の危機



挑戦

- ◎給料カット・産業創出・高校魅力化
- ◎H16~29：移住者**624人428世帯**
- ◎リーダーたちの引退と世代交代

資源

- 【経済資本】
- ◎外貨獲得産業：CAS、隠岐牛等
- ◎地域通貨ハーン
- 【社会資本】
- ◎幸福度調査
- ◎海士ファン



課題

- 1) 少数のリーダーの**危機感経営**の限界
短距離走・人柱モデルによるリーダーの疲弊・孤立
次世代リーダーの育成不足
- 2) **単独組織**のインパクトの限界
人材採用・人材育成・情報発信での限界
- 3) **地域内経済循環**の低さ
海士町42.9% 隠岐の島町61.8%
島根県79.1% (2010年RESASより)
- 4) 豊かな自然を当たり前とする
低い環境保全意識と自然資本の荒廃
農業を使用しない田んぼの割合：1.1%
住民一人あたりゴミの量
0.41t (2009年) → 0.49t (2017年)
- 5) 地域の**評価基準**の見直し
忙しくて“やった気”になっているが
大切なことは進んでいるのか？

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

AMAホールディングスによる 島まるごと株式会社化

- 1) ボトムアップ型の**ビジョニング経営**
- 2-1) 官民連携の**コレクティブインパクト**
- 2-2) 島内外の人を活かす**島の人事部**
- 3) 外貨獲得に加え**地域内経済循環**の向上
- 4) 環境保全意識を高め、
持続可能な**環境資本**の活用
- 5) 海士らしい豊かさ『**ないものはない**』
ライフスタイルの実現



今後の事業取り組み予定

1) 地域資本（経済・社会・環境）の見える化

- ・ 経済資本：地域内経済循環向上のために**産業関連表**の作成と活用
- ・ 経済資本：地域通貨ハーンを活用した共感電子通貨**eumo**の実証実験
- ・ 社会資本：島まるごと**採用情報**の見える化
- ・ 環境資本：環境資源循環向上のために**マテリアルフロー**づくり
- ・ 調査内容をまとめた**海士町地域資本白書**づくり

2) 実施体制づくり

- ・ 官民連携のAMAホールディングスを母体に**コレクティブインパクト**を生み出せる体制づくり

(コレクティブインパクトに必要な5要素 ①共通アジェンダ ②評価システム
③互いの活動を強化しあう ④継続的なコミュニケーション ⑤バックボーン組織)

3) 『ないものはない』の**ビジョン・地域の経営指標**づくり

▼必要なもの▼

地域経済・人材・経営・環境の**専門家** + 事業を推進する**プレイヤー**
+ **地域コーディネーター人件費**

スケジュール（令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◇請負業者決定 ◇事務局設置 ◇キックオフミーティング				現地意見交換会				◇成果発表会 ◇シンポジウム
地域資本の見える化					海士町版産業関連表作成		eumo実証実験			マテリアルフロー作成		海士町白書作成
実施体制づくり						評議委員準備			産業関連表活用会議			
ビジョン策定 経営指標づくり				ビジョン会議						◇AMAホールディングス島の経営会議		
							◇町政50周年式典 新しいものはない宣言					経営指標会議